

## 「医学部収容定員変更の趣旨等を記載した書類」

### a. 医学部収容定員変更の内容

医学部医学科の定員を、平成 22 年 4 月から 1 年次入学定員を 100 名から 107 名に、7 名の学生定員の増を図り、収容定員を 667 名（2 年次編入学定員 5 名を含む。）に変更する。

### b. 医学部収容定員変更の必要性

医療は国民生活に欠くべからざるものであり、誰もがいずれの地域にあっても必要な医療を受けられ、また地域医療に従事する医療従事者が働きがいを感じる医療の現場を実現していくことが必要である。

香川県においては、へき地医療を担う医師や小児科医、産科医の不足が進んでおり、どこでも、適切な医療を享受できる体制を一層整備する必要がある。

政府の「地域の医師確保等の観点からの医学部入学定員の増加について」に基づき「地域の医療が改善されたと実感できる」実効性のある策を講じて地域医療の向上に寄与するため、平成 22 年度から医学部医学科の収容定員を 7 名増加する。同時に、学生を卒業後、地域に定着させるための大学の取組として、地域医療に貢献するマインドを持った医師を養成するための教育プログラムをいっそう整備する。併せて、卒業生による地域医療への貢献を促進するための取組を実施する。

### c. 地域の医師確保のための入学定員増について

#### 1. 大学が高ずる措置

##### 【現状の取組】

- (1) 平成 18 年度から医学科の推薦入試（定員 20 名）に県内高等学校卒業予定者を対象にした 10 名程度の地域枠を設けている。
- (2) 香川県は平成 19 年度から、将来医師として県内で地域医療に従事しようとする者を対象とした医学生修学資金貸付制度を実施している。受給者の選考にあたっては、地域枠入学者及び産科医・小児科医志望者が優先される。香川大学医学部医学科在籍者で現在受給している者の総数は 12 名である（但し、平成 21 年度から開始の「県民医療推進枠」で選抜された者を除く）。
- (3) 平成 21 年度から、医学科の入学定員を 10 名増加した。このうち 5 名を、推薦入試に新たに設ける「県民医療推進枠」において募集し、選抜した。同枠は全国の高等学校 3 年生を対象とするが、香川県医学生修学資金の受給を前提とし、志願者に対して入学者選抜で県による面接を実施し合否判定の参考にする。同修学資金制度は、貸付金 月額 120,000 円を 6 年間貸与し、受給者は、卒業後、知事が指定する県内医療機関で 9 年間で義務年限期間として勤務した場合、貸与額の返還を全額免

除される。残りの増員 5 名については、一般選抜前期日程で選抜した。地域枠（県内枠）10 名については増員分とは別に募集を継続した。

#### 【今後の取組】

- ( 1 ) 一般選抜前期日程に、香川県からの修学資金の受給を前提に 5 名の特別枠を設けて学生を募集する。選抜にあたっては、香川県による面接を実施する。
- ( 2 ) 一般選抜前期日程に、愛媛県からの修学資金の受給を前提に 2 名の特別枠を設けて学生を募集する。選抜にあたっては、愛媛県による面接を実施する。

## 2 . 地域医療を担う医師の要請に関する取組

#### 【現状の取組】

- ( 1 ) 1 年次の授業科目「医学概論」において、香川県立中央病院へき地医療支援センター医師による講義「香川県の医療の現状」を実施している。
- ( 2 ) 3 年次の授業科目「課題実習」（いわゆる研究室配属）において、地域医療実習を行なうコースを 21 年度から設置する。
- ( 3 ) 5 年次の医学実習 I 及び 6 年次の医学実習 II において附属病院総合診療部その他の診療科が、県内の市中病院および開業医での実習を実施している。
- ( 4 ) 6 年次の授業科目「医療総合講義」において、へき地医療拠点病院院長による特別講義「香川県のへき地医療」及び「地域医療の担い手に求められるもの」を実施している。
- ( 5 ) 附属病院卒後臨床研修センターに専任教員を配置し、研修環境・システムを充実し、研修医のニーズに応じた自由度の高い研修プログラムを設けている。
- ( 6 ) 附属病院卒後臨床研修センターが中心となり、香川県での地域密着循環型の卒後臨床研修および専門医研修のシステムを低学年から、在学生に定期的に説明している。
- ( 7 ) 附属病院卒後臨床研修プログラムにおいては、2 年目に研修医全員が 3 ヶ月間以上、県内の協力型病院（市中病院）で研修し、卒後臨床研修を通して地域医療に貢献している。

#### 【今後の取組】

- ( 1 ) 地域医療教育に特化した県による寄附講座を設置し、地域医療教育の拡充を図る（平成 22 年 4 月設置予定）。
- ( 2 ) 5 年次の医学実習 I において、「地域医療実習」（必修、1 単位）を新設する。
- ( 3 ) 近年の高いマッチング率（90%以上）をふまえ、平成 22 年度附属病院卒後臨床研修医の募集定員を 10 名増員し 50 名とした。さらに、小児科・産婦人科医研修に直結した「小児科・産婦人科プログラム」を平成 22 年度から新設し募集中である。

### 3. 都道府県等との連携

- (1) 香川県は、平成22年度からの定員5名増員分に医学生修学資金貸付制度を適用し、9年間の香川県内医療機関従事を返還免除条件とする月額120,000円、卒業までの総額8,640,000円の支給を行なう。支給対象は四国4県と岡山県出身者であり、選抜方法は一般選抜前期日程に特別枠を設け、香川県による面接を実施する。
- (2) 愛媛県は、平成22年度からの定員2名増員分に愛媛県地域医療医師確保奨学金貸与制度を適用し、9年間の愛媛県内医療機関従事を返還免除条件とする月額100,000円、入学金282,000円、授業料535,800円、卒業までの総額10,696,800円の支給を行なう。支給対象は四国4県と岡山県出身者であり、選抜方法は一般選抜前期日程に特別枠を設け、愛媛県による面接を実施する。

### 4. その他

香川県、県医師会、香川大学医学部、香川県内の中核病院等が協力し、専門医および総合医の育成を目的とした研修プログラム「香川県医師育成キャリア支援プログラム」を策定中である。

別表

平成21年度

推 薦	前期日程	後期日程	計
25人 (内地域枠10人・県民医療推進 枠5人)	50人	25人	100人

平成22年度

推 薦	前期日程	後期日程	計
25人 (内地域枠10人・県民医療推進 枠5人)	57人 (地域医療推進枠7 人(香川5人、愛媛2 人))	25人	107人

地域医療に関する学部教育のカリキュラムの概要

学年	授業科目名等	期 間	授業が行われる場所	授 業 内 容
1 年 次	医学概論	前期	医学部キャンパス	医療と地域社会をテーマに香川県の医療の現状について講義
	早期体験学習	前期	医学部キャンパス	医師不足が指摘される診療科の医師による入門講義
	総合保健福祉医療学	後期	保健所、保健センター、老人介護福祉施設等	学外医療機関の見学実習
	特別講演	後期	医学部キャンパス	多職種連携地域医療に関する特別講演
2 年 次	総合保健福祉医療学	前期	保健所、保健センター、老人介護福祉施設等	学外医療機関の見学実習
	特別講演	前期	医学部キャンパス	多職種連携地域医療に関する特別講演
3 年 次	課題実習	後期	へき地医療拠点病院、へき地診療所、小児医療の拠点病院	県内の医療機関において見学型実習及びボランティア活動を行う。
4 年 次	衛生学	第1・2学期	市町村役場・施設等	地域保健医療
	公衆衛生学	第1・2学期	保健所・市町村役場等	地域訪問調査をし、保健師活動等をとおして地域保健活動に対する理解を深める。
5 年 次	医学実習(ホリウ)	通年	附属病院、地域診療所、市中病院、地域連携室、訪問診療・訪問介護施設、消防署、総合検診協会、保健所等	プライマリケア、病診連携の実状、多職種連携のチーム医療と在宅医療、救急車搭乗、一次から三次救急医療、小児救急医療、遠隔医療、ネットワークの活用状況の体験、臨床疫学、予防医学、保健増進等の実習、研修会への参加
6 年 次	医学実習(診療参加型実習)	第1学期	へき地医療拠点病院、へき地診療所、小児医療や神経難病の拠点病院	診療チームの一員としての地域医療体験の充実
	医療総合講義	第1・2学期	医学部キャンパス	香川県のへき地医療、地域医療の担い手に求められるもの、ネットワークシステムによって地域医療はこう変わる等についての特別講演